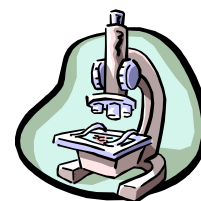


# ミレニアム高度技術研修の開催にあたって



長崎大学医学部附属動物実験施設  
佐藤 浩

この技術研修会も早や6回目を迎えましたが、奇しくも今回は2000年ということで、今世紀最後の研修ということになります。

平成9年度に「国立大学動物実験施設教職員高度技術研修」としてスタートした本研修は、一昨年から公私立大学実験動物施設関係の職員も加っていただくとともに、昨年の北海道大学医学部附属動物実験施設主催から「実験動物関係教職員高度技術研修」と名称も発展的に変えてきています。

昨年度と本年度の研修内容は、微生物でも特に「人獣共通感染症」をテーマとしております。動物実験をとまなう医学研究に際しての人獣共通感染症の理解やそれらの予防技術の確立は動物実験施設に課せられた重要な課題ですが、それらには、微生物の全体像、実験動物における感染対策、予防原理等を理解し、さらに微生物学的知識や技術、特に日常的な検査診断技術の修得も欠かせません。これらにも配慮するとともに、新しい検査項目や、最近話題の多い寄生虫の理解や検査についても修得できる研修内容を、実験動物中央研究所の先生方のご協力により実現できました。また、人獣共通感染症は細菌、ウイルス、リケッチア、真菌、原虫、さらに寄生虫によりもたらされますが、この中で、今回は特記として、「腎症候性出血熱ウイルス」と「サルのBウイルス」の検査技術を取り上げましたし、さらに実験動物固有の感染症の検査技術も研修できる内容と致しました。

皆様ご存じのように、人獣共通感染症は昨年施行された新しい感染症予防法においても、重点的に捉えられており、現在最も重要な課題の一つです。また、微生物関係そのものもわれわれを取りまく社会環境において極めて重要で、数年前の0157食中毒事件を始め、今夏には食品への微生物自身あるいはその代謝産物が混入し、大きな社会問題を提起したのは周知のごとくです。



高度技術研修は、受講生だけのものではなく、毎年全国への衛星放送（スペースコラボレーションシステム：SCS）による公開講義も同時に行っており、今回も最終日の27日午前中に、山内先生による「医学研究における人獣共通感染症」、有川先生による「ハンタウイルス感染症」、片峰先生による「プリオン病」をお願いすることとしました。いずれも昨今話題性が高く興味のあるトピックばかりです。これらの講義と、実習による実施体験等が相俟って研修成果が多くの職場で共有・普及され、医科学分野における安全な研究遂行に還元されることを願っております。

今回の研修の主催は長崎大学医学部附属動物実験施設ですが、研修開催場所は火の国熊本の新築されました熊本大学動物資源開発研究センター新館です。

勉学に絶好のシーズンを迎えている秋の九州での日本各地から 22 名の参加者による 3 泊 4 日間の研修ですが、この会はまた全国交流を深める絶好の機会にもなると思います。研修中はもちろんのこと、研修が終わったあともこれらの良きつながりが長く続き、深い絆になることを願っています。

最後になりましたが、テキストや講義のために今回の研修に講師として参加いただく講師の諸先生方や、開催場所についていろいろお世話になりました熊本大学の動物資源開発研究センターの諸兄及び本部事務局研究協力課の方々に厚くお礼申し上げますとともに、絶大なご理解とご協力を戴いた文部省学術情報課、長崎大学医学部事務局、長崎大学医学部附属動物実験施設の関係諸兄に厚くお礼申し上げます。

平成 12 年 10 月吉日